

第7章 文化スポーツ観光

1	文	化	国	際
2	ス	ポ	ー	ツ
3	観	光	事	業

文化スポーツ観光

1 文化国際

(1) 文化事業の実施

市民文化の向上、文化活動の推進、本市からの文化の発信等を目的に、各種文化事業を実施している。

また、市と市民等が協働で文化を振興し、心の豊かさが実感できるまちづくりを推進するとともに、市民力と英知を結集し、郷土に愛着を感じ、地域の内外に誇れる前橋の文化を創造するため、平成27年4月、前橋市文化振興条例を施行した。そして、本条例に基づき、文化の振興に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的に、令和3年3月、前橋市文化振興基本方針を策定した。主な文化事業は以下のとおり。

ア アーツカウンシル前橋

前橋市文化振興条例第13条に基づき、本市の文化行政を推進する新たな仕組みとして、行政と一定の距離を置き、文化芸術の専門家による調査、分析等を行うアーツカウンシルの仕組みを導入し、文化行政の専門性、透明性及び公正性を確保するため、アーツカウンシル前橋を設置し、平成30年度から運営を開始した。

イ 前橋市民芸術文化祭

本市の芸術文化の振興・充実を図ることを目的として実施する。市と前橋市文化協会の共催による、文化協会所属部会及び支部の発表会。令和5年度は約14,000人が参加した。令和6年度で47回目。

＜内容＞ 音楽・美術などの分野における舞台・展示発表など

＜時期＞ 例年4月から3月にかけて開催

＜場所＞ 市民文化会館等

(2) 文化施設の管理・運営

市民に芸術文化の鑑賞や活動の場を提供し、本市芸術文化の普及振興に努めるとともに、施設の管理を行う。

ア 前橋市民文化会館

所在地	前橋市南町三丁目62番地1	
総工事費	約63億円	
規模	[敷地面積] 25,705.66㎡、[延床面積] 13,866.17㎡	
構造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋造 地下1階、地上4階	
設備	大ホール	1,200席（車椅子対応席12席）、車椅子スペース8席、親子席6席 音楽的音響効果を重点とした多目的ホール 音響可変装置、オーケストラピット、迫りなどを装置 ワンフロア・ワンスロープ型式
	小ホール	600席（車椅子対応席32席） 演劇、能楽、邦楽、室内楽、講演等 音響反射板、演劇効果設備、映写設備等を設置、演劇、講演等に適した明瞭度のよいホール
	展示ホール	大展示ホール（669.28㎡）、小展示ホール（190.00㎡）
	市民プラザ（620.53㎡）、市民ロビー（211.40㎡）、リハーサル室（2室）、練習室（1室）、応接室（1室）、会議室（大・中・小）（5室）、授乳室、フリースペース	
駐車場	約400台	

① 建設工程

基本設計 昭和55年3月完了
 実施設計 昭和55年9月完了
 建設工事 昭和55年12月～昭和57年8月
 起工式 昭和56年1月17日
 上棟 昭和57年4月8日
 開館 昭和57年11月3日

② 運営

施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託している。

③ 施設の利用状況

(令和5年度)

施設名	利用日数	利用人数	開館日数	日数による稼働率
大ホール	218 日	102,756 人	256 日	85.2 %
小ホール	203	37,645	247	82.2
リハーサル室(2室)	401	15,403	560	71.6
練習室	189	2,062	283	66.8
応接室	76	532	282	27.0
大展示ホール	166	21,151	274	60.6
小展示ホール	174	14,353	279	62.4
会議室(5室)	1,051	17,724	1,406	74.8

※ 稼働率は、利用日数を開館日数で除したもの。

④ 事業内容

市民の芸術文化への要望に対応するため、次の指定管理事業を実施した。

区分	事業数	人数
クラシック	17事業	7,956人
ポピュラー	2事業	2,300人
古典芸能	2事業	1,200人
バレエ	6事業	3,278人
演劇・ミュージカル	2事業	2,541人
その他	5事業	2,323人
合計	34事業	19,598人

⑤ ネーミングライツ導入

施設愛称名	昌賢学園まえばしホール
ネーミングライツスポンサー	学校法人昌賢学園(前橋市元総社町152番地)
愛称使用期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで(5年間)

イ 前橋市民文化会館大胡分館

所 在 地	前橋市大胡町15番地1	
総 工 事 費	約19億7千万円	
規 模	〔敷地面積〕 3,640.58㎡、〔延床面積〕 2,956.17㎡	
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階（一部4階）	
設 備	ホール	483席（車椅子対応席2席分）、親子席5席
	ギャラリー（64㎡）、展示室、ロビー、ホワイエ、2階各施設	
駐 車 場	60台	

① 建設工程

基本設計	平成5年3月完了
実施設計	平成5年12月完了
建設工事	平成5年12月～平成7年1月
開 館	平成7年3月4日

② 運営

施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託している。

③ 施設の利用状況

（令和5年度）

施 設 名	利用日数	利用人数	開館日数	日数による稼働率
ホール	120 日	13,500 人	309 日	38.8 %
ギャラリー	169	877	309	54.7

④ 事業内容

市民文化会館の機能を十分に発揮し、市民の芸術文化への要望に対応するため、次の指定管理事業を実施した。

区 分	事 業 数	人 数
演劇・ミュージカル	7事業	1,582人
地域活性化（講演）	1事業	150人
合 計	8事業	1,732人

⑤ ネーミングライツ導入

施設愛称名	大胡シャンテ マルエホール
ネーミングライツスポンサー	株式会社クスリのマルエ（前橋市樋越町83）
愛称使用期間	令和5年4月1日から令和7年3月31日まで（2年間）

ウ 前橋市芸術文化れんが蔵

所 在 地	前橋市三河町一丁目16番27		
規 模	〔敷地面積〕 1,670.88㎡（仮換地面積）、〔延床面積〕 226.32㎡		
構 造	煉瓦造をＲＣ壁により耐震補強 地上１階		
設 備 ・ 特 徴	柱	縦方向約５ｍ間隔に４本 横方向柱間隔約４ｍ 壁から約2.5m 合計８本	
	楽屋等なし、天井高約３ｍ、備品類保管用倉庫１棟、多目的トイレ１基（外付け）		
駐 車 場	施設南側18台（身障者用１台含む）、東側（未舗装）10台程度		

① 事業の経過

平成18年度 「都市景観推進事業用不動産」として前橋市土地開発公社が土地建物取得。

平成18～22年度 前橋工科大による耐震診断、文化財保護課による文化財調査、県内事例視察、庁内ワーキンググループによる利活用の検討等を実施。

平成23年度 前橋工科大との共同研究を実施。利活用に向けたニーズ調査や耐震改修方法などを研究。

平成24年度 前橋市土地開発公社より前橋市取得。耐震改修設計。

平成25年度 耐震改修工事実施。庁内PT等の検討により、平成26年度以降の所管課が文化国際課に決定。

平成26年度 展示、演劇、音楽発表など各種文化団体により試用を開始。外構工事実施。

平成27年度 平成27年6月1日設置条例施行、供用開始。

平成30年度 平成30年4月より、施設の利用申込業務を公益財団法人前橋市まちづくり公社に委託。

② 施設の利用状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用件数	85 件	97 件	82 件
利用者数	6,031 人	6,675 人	4,679 人

エ 水と緑と詩のまち前橋文学館

所在地	前橋市千代田町三丁目12番10号
総工事費	約18億円
規模	〔敷地面積〕 1036.53㎡、〔延床面積〕 2729.84㎡
構造	鉄筋コンクリート造4階建て
設備	朔太郎展示室、企画展示室、資料閲覧室、収蔵庫、映像展示室、ムットーニシアター、ミュージアムショップ、ホール（80席）、オープンギャラリー、研修室（20席）、朔太郎記念館（別棟）

① 建設工程

建築工事 平成4年1月～平成5年5月

展示工事 平成4年9月～平成5年6月

建築工事着工 平成4年1月28日

建築工事完成 平成5年5月15日

展示工事完成 平成5年6月30日

開館 平成5年9月 3日

新収蔵庫建築工事 平成29年12月4日～平成30年8月13日

② 運営

平成25年度から平成27年度までは施設の管理運営及び文化事業を指定管理者として一般財団法人前橋市文化スポーツ振興財団に委託していたが、指定管理の満了を契機に管理方法を見直し、平成28年度から市直営として管理を行っている。

③ 施設の利用状況 (令和5年度)

朔太郎展示室・企画展等観覧者数	28,501人
ホール、研修室使用者数	3,761人
萩原朔太郎記念館観覧者数	5,936人
合 計	38,198人

④ 事業内容

「日本近代詩のふるさと」と呼ばれる前橋が生んだ詩人・萩原朔太郎の業績を顕彰するとともに、市民の幅広い芸術文化活動のひとつの拠点として、次の事業を実施した。

A 企画展示 (令和5年度)

事業名	会 期	会 場
フットノーター吉増剛造による吉増剛造による吉増剛造	6/10(土) ～ 9/10(日)	2階展示室
ちぎらまりこのはりえぐらし	6/17(土) ～ 9/3(日)	3階オープンギャラリー
空ちう 虹になれー生誕130年記念高橋元吉展	9/16(土) ～ 12/3(日)	3階オープンギャラリー
朔太郎を刺繍(ししゅう)す ティム・サトミ	9/23(土) ～ 12/24(日)	2階展示室
純粹なものだけがほろびない 前橋の詩人 曽根ヨシ展	12/16(土) ～ 2/4(日)	3階オープンギャラリー
特別企画展『青猫』刊行100年記念展 BLUE ME ANCHOLIE『青猫』が『定本青猫』に辿りつくまで	1/27(土) ～ 5/26(日)	2階展示室
飛行機乗りと風船乗り「ふはりふはりと昇つて行かうよ。」ーサン＝テグジュベリ・堀越二郎・萩原朔太郎	3/9(土) ～ 6/9(日)	3階オープンギャラリー
わたしが描く朔太郎の世界展	12/9(土) ～ 12/26(火)	1階ロビー

B 企画展示関連イベント (令和5年度)

事業名	イベント内容
高橋元吉作品朗読・演奏会	第1部は元吉のひ孫高橋在也氏によるピアノ演奏、第2部は朔美館長らによる朗読、第3部は在也氏のピアノ伴奏で県立前橋女子高卒業生の校歌斉唱
講演・鼎談と曽根作品の朗読	第1部は詩人中村不二夫氏の講演、第2部は元煥平堂常務の岡田芳保氏と詩人川島完氏と元上毛新聞論説委員長の藤井浩氏による鼎談、第3部は朔美館長と曽根氏の長女櫻井ゆりか氏と芽部会員らによる詩の朗読
時間割(連続講義)	井村まなみ県立女子大名誉教授ら県立女子大7人の教授陣による講義
リーディングシアターvol.22「イエスタディ」	清水邦夫氏による戯曲「イエスタディ」を上演
前橋文学館開館30周年記念イベントvol.1「朔太郎を歌う」	「オンド・マルトノ」の世界的奏者で個性派ボーカリストの原田節氏とジャズピアニスト谷川賢作氏による歌と演奏
前橋文学館開館30周年記念イベントvol.2「ムットーニトと語る朔太郎のことばの森」	第1部は武藤政彦氏による講演と上演、第2部は武藤氏と朔美館長と萩原玲子氏による鼎談
アイドルマスターパネル展	ゲーム「アイドルマスター」のライブイベントに合わせたパネル展

C 新収蔵資料展示

萩原葉子自筆原稿「狐の嫁入り」 公開期間 8月22日（火）～10月3日（火）
 大手拓次詩稿 「死の海坊主」 公開期間 10月5日（木）～11月14日（火）
 2階常設展示室 出品数2点

D 収蔵資料貸出及び閲覧 ※R5年度は資料整理中のため、原則、貸出・閲覧利用を一時休止していた

- ・貸出 1件
- ・閲覧 0件

E 関連団体支援事業（前橋文学館友の会、朔太郎研究会ほか）

- ・朔太郎研究会研究例会 ほか

F 教育普及事業

- ・博物館実習生受入、小中学生職業体験受入、保育園児への出張前橋文学館（読み聞かせ）

G その他

- ・文学館だより、年報の発行
- ・オリジナルグッズの販売

⑤ 萩原朔太郎に関する事業**A 萩原朔太郎賞**

日本近代詩に多大な貢献を残した本市出身の詩人萩原朔太郎の業績を長く顕彰するため、萩原朔太郎の名を冠した文学賞を授与する。令和5年度で31回目。

＜受賞作品＞ 1作品

＜正 賞＞ 萩原朔太郎像

＜副 賞＞ 100万円

＜令和5年度受賞＞ 杉本 真維子『皆神山』

B 朔太郎音楽祭

詩人萩原朔太郎は、自身でマンドリン曲を作曲するなどマンドリンと関わりが深いことから、朔太郎生誕120年を記念し、平成18年度に「前橋マンドリンフェスタ2006」を開催。平成19年度より「～マンドリンのまち前橋～ 朔太郎音楽祭」に名称を変更し、「マンドリンのまち前橋」を全国に情報発信。平成22年度には、5周年記念として独奏コンクールを実施した。平成29年度から市内アマチュア楽団に一般参加者を加え、高等学校ギター・マンドリン部などによる市民参加型の演奏会を実施し、また朔太郎の詩に作曲し発表している。

C 朔太郎忌

萩原朔太郎の命日である5月11日に最も近い第2土曜日に、萩原朔太郎を偲ぶとともに、作品がもつ魅力と価値について考えを深め、文化の向上に寄与することを目的として実施している。令和5年度で第51回を迎えた。

D 萩原朔太郎記念館

敷島公園のばら園内で一般公開されていた萩原朔太郎生家の一部（書斎・離れ屋敷・土蔵）を、平成28年度に前橋文学館と広瀬川を挟んだ対岸にある河畔緑地に移築し、萩原朔太郎記念館として公開している。記念館敷地内には平成30年度に「屋根の上の猫」、令和2年度に「月に吠える犬」を設置。令和3年度には記念館離れ座敷内に「恐ろしく憂鬱なる」「蝶を夢む」に登場する蝶をモチーフとしたオブジェを設置した。

＜入 場 料＞ 無料

＜開館時間＞ 午前9時から午後5時まで（水曜日と年末年始は休館）

オ アーツ前橋

所 在 地	前橋市千代田町五丁目1番16号
総工事費	約15億円
規 模	[敷地面積] 約2,629.69㎡、[延床面積] 約5,517.38㎡
構 造	既設鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上9階建のうち、地下1階から地上2階までの部分
設 備	ギャラリー、プロムナード、エントランスホール、アーカイヴ、ショップ、カフェ、事務室、 収蔵庫

① 建設工程

基本設計業務 平成23年 3月～平成23年 4月
 実施設計業務 平成23年 4月～平成23年 7月
 建築工事 平成23年12月～平成24年10月
 建築工事着工 平成23年12月15日
 建築工事完成 平成24年10月31日
 開 館 平成25年10月26日

② 運営 市直営

③ 施設の利用状況

(令和5年度)

展覧会観覧者数	54,443人
総来館者数 (交流スペース、アーカイヴ、カフェ、ショップ、イベント含む)	119,636人

④ 事業内容

多くの市民にアーツ前橋の活動を理解してもらうために、魅力的な施設づくりを目指して、開館10周年記念展を含めた次の各事業を開館10周年記念事業として実施した。

A 企画展

(令和5年度)

事 業 名	会 期	会 場
コレクション+ 手のひらから宇宙まで	7/29(土) ～ 9/24(日)	地下ギャラリー
403architecture[dajiba] / 椅子の場所は決めることができる	7/29(土) ～ 9/24(日)	1階ギャラリー
アーツ前橋開館10周年記念展 ニューホライズン 歴史から未来へ	10/14(土) ～ 2/12(月・祝)	1階・地下ギャラリー、 白井屋ホテル、 まえばしガレリア、 Maebashi works、 スズラン前橋店、 HOWZEビル他
前橋の美術2024 -やわらかなバトン-	3/2(土) ～ 3/26(火)	1階・地下ギャラリー

B 地域アートプロジェクト

・滞在制作成果発表会(2国地域間交流/作家:阪中隆文/派遣先:台北芸術大学 関渡美術館・台湾)

C 教育普及

- ・あーつひろば
- ・アーツナビゲーター研修
- ・アーティスト・イン・スクール

D その他の事業

- ・サポーター運営
- ・メンバーシップ運営

(3) 国際交流の推進

民間の国際交流活動の盛り上がりや、国際化に対する市民意識の高まりを背景に、多文化共生社会の実現を目標に各種事業を実施している。主な事業は以下のとおり。

ア 外国人相談窓口の運営（外国人生活相談事業）

前橋市国際交流協会と一体となって、相談窓口を運営。国際交流員や相談員が毎週2回、英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語に対応した相談窓口を、市庁舎2階に開設。メールでの相談受付も行っている。

イ 日本語教室の開催

年間35回程度、7教室の日本語教室を開催。また、年12回程度の日本語少人数レッスンも2教室開催。

ウ 外国人への生活情報の提供

前橋で生活する上で必要な情報を、前橋リビングガイドホームページにて、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、やさしい日本語で提供。

エ 前橋市国際交流協会との連携

本市の国際化及び国際交流の総合的な窓口である前橋市国際交流協会と連携し、民間レベルでの国際交流を推進する。

オ 国際交流員の配置

国際交流員（CIR）を文化国際課に1名配置し、地域の国際化をリードすべく、幅広い分野で活動。

＜主な業務内容＞

- ① 本市来賓の通訳や、海外から送付される文書の翻訳
- ② 外国人相談窓口での相談員
- ③ 前橋市国際交流協会や小中学校、民間団体などが実施する事業への協力
- ④ 地域住民の異文化理解のための交流活動への協力

カ 多文化共生のまちづくり

在住外国人との共生を推進するため、前橋市国際交流協会等と連携し、多文化共生事業の推進を図る。

(4) 都市間交流の推進**ア 海外姉妹・友好都市との交流**

民間レベルの交流が深まり、イタリア・オルビエート市と友好都市提携を、アメリカ・バーミングハム市と姉妹都市提携を締結した。また、平成17年度には、旧大胡町の姉妹都市であったアメリカ・メナーシャ市と新たに友好都市提携を結び、友好関係を継続した。今後も姉妹都市・友好都市との交流を発展すべく、民間交流の促進を図っていく。

＜主な交流実績＞

- ① 前橋・渋川シティマラソンにバーミングハム市から選手参加
- ② メナーシャ市との中高生交流事業
- ③ 姉妹都市締結20周年を記念してバーミングハム市との高校生交流事業再開
- ④ アラバマ日米協会表敬訪問

＜令和5年度実績＞ 在バーミングハム名誉領事マーク・ジャクソン氏が前橋市を訪問し、めぶくプラットフォーム加盟大学との意見交換会を行った。

イ 国内友好都市との交流

前橋への県庁誘致を決定づけた初代群馬県令・榊取素彦の出身が萩市であることが縁で、両市の交流が盛んになったことにより、前橋市制施行110周年・萩市制施行70周年を記念して、友好都市提携を締結した。観光、教育、文化、経済など各分野における市民交流活動を通じて、両市民の相互理解と親善を深める。

(5) 歴史文化遺産の活用

ア 歴史文化遺産の活用

平成25年度から28年度まで設置された「歴史文化遺産活用委員会（第1期・第2期）」の調査によって掘り起こされた、全国に誇れる歴史文化遺産を活用し、「歴史都市まえばし」の具現化に向け本市の魅力を発信するため、市内外からの誘客をはかる事業を実施する。

＜歴史文化イベントの実施又は運営補助＞

＜令和5年度＞

イベント名	開催日
前橋空襲一斉慰霊	8月5日（土）
第4回 新陰流流祖祭	11月11日（土）
第5回 大胡城・牧野氏まつり	12月17日（日）
歴史観光ガイド（11コース、うち2コースは悪天候のため開催中止）	10月14日（土）～11月11日（土）

イ 前橋学における調査研究及び普及促進

「歴史文化遺産活用委員会」からの提言を踏まえ、歴史と文化に立脚して地域の諸問題を解決する学び（営み）である「前橋学」の確立と、「官・館・民・学」の連携による文化創造基盤づくりに向けて、様々な組織と連携し調査研究及び普及促進を図る。また、本市の歴史文化遺産研究を円滑に推進するため、シンクタンク的な役割を担う組織として平成29年度から3年間「前橋学センター」を設置した。

① 前橋学ブックレットの発刊

前橋の誇れる先人、すばらしい自然、埋もれた歴史のすべてを後世に語り継ぐため、研究者や専門家だけでなく市民自らが調査・発掘した成果をブックレットとして刊行し、市民の郷土愛醸成と全国への前橋の魅力発信を図る。令和5年度末までに全36号を刊行した。

＜令和5年度発刊＞

- ・第34号『上川淵村役場当直日誌 第1巻』上川淵村役場当直日誌研究会
- ・第35号『上川淵村役場当直日誌 第2巻』上川淵村役場当直日誌研究会
- ・第36号『上川淵村役場当直日誌 第3巻』上川淵村役場当直日誌研究会

② 前橋学市民学芸員の養成及び活動促進

歴史と文化に立脚した地域づくりの担い手となる前橋学市民学芸員を養成するため、全15回の講義を受けた受講生を同学芸員として認定する「前橋学市民学芸員養成講座」を開講する。

また、認定を受けた前橋学市民学芸員に対し、史料整理や調査研究、歴史観光ガイド、偉人紙芝居の制作、イベント補助等の活動の場を提供し、それを補助する。

＜前橋学市民学芸員養成講座 開講実績＞

- ・累計認定者数 338人（第1期～第9期）
- ・過去5年間の実績

年度	期数	期間	受講者数	認定者数
R1	第7期	平成31年4月18日(木)～令和元年8月29日(木)	28	25
R2	第8期	令和3年度へ延期	—	—
R3	第8期	令和4年度へ延期	—	—
R4	第8期	令和4年5月12日(木)～9月15日(木)	30	23 ※補講により認定となった 第7期生2名を含む
R5	第9期	令和5年5月11日(木)～9月7日(木)	28	20

ウ （仮称）前橋空襲と復興資料館の設置

戦争体験者が減少する中で、「前橋空襲と復興」の実情と、平和を希求する市民の思いを風化させず後世へ伝承するため、昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）2階フリースペースに、「（仮称）前橋空襲と復興資料館」を整備する。

＜令和5年度実績＞

有識者らで組織する検討委員会では、月に1回のペースで会議を開催し、展示内容等の検討や先進地視察を行った。

また、複製資料の作成や整備予定地の什器備品類の撤去等、令和6年度中の開館に向け準備を進めた。

2 スポーツ

(1) 市民体育・スポーツ

ア スポーツ大会

(令和5年度)

No.	大会名	開催日	エントリー数
1	第42回あかぎ大沼・白樺マラソン大会	8月27日（日）	1,668人
2	まえばし赤城山ヒルクライム大会2023	9月24日（日）	2,456人
3	赤城山100ウルトラマラソン	9月24日（日）	208人
4	第27回前橋市民軽スポーツフェスティバル	11月19日（日）	626人
5	第35回前橋ウォーキングジャンボリー	11月23日（木）	280人
6	前橋・高崎連携スポーツ交流第25回レディースバレーボール大会	2月24日（日）	369人
7	市民スポーツ祭	10月4日（水） （開会式）	12,353人 （一部中止）
8	地区市民運動会（23地区中7地区開催）	地区ごとに異なる	4,620人

イ スポーツ教室

＜指定管理者＞ 公益財団法人前橋市まちづくり公社

＜コース数＞ 346コース（うち中止22コース）

＜参加者数＞ 10,782人（延べ71,369人）

(2) スポーツ施設等一覧

(令和5年度)

No.	施設名	所在地	利用人数	管理
1	ヤマト市民体育館前橋（前橋市民体育館）	上佐鳥町460-7	156,124	指定管理
2	しんしん大渡体育館	大渡町2-3-11	25,897	〃
3	日吉体育館	日吉町2-17-12	27,675	〃
4	株式会社 志村工業 大胡体育館	河原浜町478	20,400	〃
5	じょぶJOBジョブズ宮城体育館	鼻毛石町1561	78,129	〃
6	前橋市民プール	上細井町2192	15,465	〃
7	しんしん大渡温水プール・トレーニングセンター	大渡町2-3-11	96,505	〃
8	前橋市六供温水プール	六供町1068	76,981	〃
9	前橋市宮城プール	鼻毛石町1561	0	〃
10	防災のHoshino 三俣テニスコート	三俣町3-1	40,276	〃
11	ロード宮城総合運動場	鼻毛石町2270-1	34,833	〃
12	ザ・野菜 粕川総合グラウンド	粕川町西田面189	34,360	〃
13	富士見総合グラウンド	富士見町皆沢315-1	11,971	〃
14	前橋市王山運動場	総社町1-8-2	24,733	〃
15	コーエィ前橋フットボールセンター（下増田運動場）	下増田町277	139,483	〃
16	ベースボールパークファースト北部運動場	上細井町2127-4	20,440	〃
17	前橋市清里方面運動場	青梨子町591	8,628	〃
18	粕川西部運動場・高橋建築設計事務所 元気広場	粕川町女淵1500-2	5,445	〃
19	登利平 桃ノ木川グラウンド	東片貝町417-4	26,646	〃
20	OOHATA 千本桜野球場	苗ヶ島町2516-1	9,460	〃
21	前橋公園の各公園施設の一部（中央緑地）	石倉町4,5丁目地内	9,876	〃
22	利根川敷島緑地	敷島町地内	47,392	〃

No.	施設名	所在地	利用人数	管理
23	利根川大渡緑地	総社町総社地内	16,777	指定管理
24	前橋総合運動公園	荒口町437-2	127,893	〃
25	大野工業大胡総合運動公園	堀越町473-4	62,747	〃
26	旧前橋東商業高校	上大屋町105	37,182	業務委託
合 計			1,155,318	-

※指定管理者、業務受託者は、すべて公益財団法人前橋市まちづくり公社。

(3) スポーツ関係組織

ス ポ ー ツ 推 進 審 議 会	12名（うち市民公募2名）
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 会	110名
ス ポ ー ツ 協 会	スポーツ団体(39)、地区体協(23)、中体連、高体連 計64団体
ス ポ ー ツ 少 年 団	14種目、126団、団員2,668人、指導者460人、スタッフ146人

3 観 光 事 業

(1) 三大まつりと花火大会

ア 前橋初市まつり（令和7年1月9日）

このまつりは、別名「だるま市」と称され、毎年1月9日を開催日としている。

起源は、厩橋（現在の前橋市）城主酒井重忠侯の時に、毎月4と9の日に日用雑貨の取り引きをしたのが最初といわれ、約400年の長い歴史がある。

市内中心部の国道50号を交通規制のうえ、本町一、二丁目及び中心市街地は、だるま市、縁起物等の露店と人の波で終日賑わう。

イ 前橋七夕まつり（令和6年7月5日～7日）

昭和26年から全市をあげての七夕まつりとして始められ、各商店街が趣向をこらした飾り物や竹飾りの作品は、市民はもとより県内外からの観光客でにぎわう七夕まつりである。

このまつりは、7月7日が含まれる週の金曜日から日曜日にわたって開催され、七夕飾りのコンクールなど見物客の関心も高い。

令和6年度は、前橋中心商店街・JR前橋駅前・広瀬川河畔緑地・馬場川通り4つのエリアで様々なイベントが行われ、新しい形の七夕まつりを開催する。

ウ 前橋花火大会（令和6年8月10日）

真夏の夜を彩る花火は、市民の郷愁を誘い、夜空に大きく夢を描く雄大な夏の風物詩として親しまれている。例年、市民、企業の協賛を得て大渡橋周辺利根川河畔緑地を会場に、工夫を凝らした打上げ花火や仕掛け花火が上がり多くの見物客で賑わう。

エ 前橋まつり（令和6年10月12、13日）

このまつりは、戦後「復興祭」として催されたのが始まり。その後、昭和24年に「商工祭」、昭和34年から市民総参加のまつりとして「前橋まつり」に改められ、本年度で76回目となる。例年の主な行事内容は次のとおりである。

① 祇園山車と子どもみこし

各町内、子ども会等の参加を募り山車（本山車・装飾山車、お囃子等）とみこし（本みこし・樽みこし等）で市街地中心部を行進する。

② 大人みこし

各町内、商店街、事業所、団体等多数に参加して、本みこし・樽みこし・創作みこし等で市街地中心部を行進する。

③ 鼓笛・吹奏楽演奏

小学校等が参加して、市街地中心部で演奏する。

④ 文化交流広場

和太鼓、民謡踊り、八木節等の郷土芸能を実施し、後世へ永く伝承するとともに、子供たちが集い親子の交流を図る催物を、市内及び周辺の各関係団体や各種学校、事業所及び一般市民等が協力し実施する。

⑤ イベントステージ

まつりの改善及び活性化を図るための新規イベントの企画、並びに音楽と踊りの広場として老若男女が参加できる行事を行う。

⑥ 前橋だんべえ踊り

「前橋音頭」を独特のリズムにアレンジし、前橋市の木（イチョウ）をかたどったオオイチョウ（鳴子）を鳴らしながら踊る前橋だんべえ踊りに、多数の一般市民等が参加する。また、幼稚園・保育園児を対象にした「子どもだんべえ踊り」も実施する。

(2) 主な観光施設

ア 詩碑

「詩のまち」を標ぼうしている本市には、本市出身有名詩人の詩碑が市内各所のゆかりの地に建立されているほか、平成5年から創設された萩原朔太郎賞の受賞作品の一部詩碑が広瀬川河畔に建てられている。

萩原朔太郎	記念館	広瀬川河畔
	詩碑	敷島公園ばら園内、広瀬川河畔、才川緑地内、大渡橋歩道欄干、新前橋駅東口、前橋こども公園内
萩原恭次郎	詩碑	群馬大橋西詰、前橋こども公園内
平井晩村	詩碑	前橋公園臨江閣南
山村暮鳥	詩碑	中央大橋西詰、前橋こども公園内
伊藤信吉	詩碑	広瀬川河畔遊歩道
高橋元吉	詩碑	高浜公園内、前橋こども公園内
志賀直哉	文学碑	赤城山山頂
松野自得	句碑	赤城山山頂句碑めぐり遊歩道内

イ 敷島公園

大正11年官有地の払い下げを受けて開園した。大正14年一般から公募して「敷島公園」と命名された。

広さ37.6haの園内には県営陸上競技場、野球場、プールなどの運動施設のほか約2,700本の松林、「全国都市緑化ぐんまフェア」の開催にあたり大規模改修が行われ、さらに拡充された約600種・約7,000株のばら園、蚕糸記念館、温室、歌碑、詩碑、句碑などがあり、前橋市を代表する公園として、広く市内外から多くの人々が訪れる。

ウ 前橋公園

明治38年日露戦役記念を兼ねて下川原及び風呂川流域招魂社東照宮河畔を公園地として設置された都市公園である。

現在は、広さ18.5haの園内に、前橋市中央児童遊園るなばあく、臨江閣、さちの池、親水水上ステージ、スケートボード広場、詩碑、句碑、楯取素彦功德碑、宮崎有敬翁紀功之碑があり、付近にはグリーンドーム前橋、高浜公園、虎姫観音堂などがある。特に桜の開花時には、約350本のソメイヨシノが咲き、桜の名所として親しまれている。

エ 県立赤城公園

昭和10年に開設された県立公園で、面積は1,290ha。約10万株のレンゲツツジが咲き誇る白樺牧場やボート遊び、ワカサギ釣りが楽しめる大沼があるほか、赤城山総合観光案内所や赤城少年自然の家といった市有施設や県立赤城公園ビジターセンターもある。さまざまなルートで登山やハイキングなどを楽しむことができる。

オ 広瀬川河畔緑地・前橋文学館

昭和22年戦災復興事業の一環として取り組まれ、昭和50年から56年にかけて中央前橋駅久留万橋から上流の柳橋まで約1,200m、2.7haが整備された。また、平成19年度から23年度には、広瀬川河畔緑地再整備事業として厩橋から久留万橋までの延長約750mを再整備した。

あずまや、緑道、モニュメント、詩碑、歌碑などがある。

平成5年9月「前橋文学館」がオープンし、朔太郎橋や立体駐車場の市営パーク城東も整えられた。平成29年4月には、「萩原朔太郎記念館」が移築され、「水と緑と詩のまちまえばし」のシンボルゾーンとして親しまれている。現在、前橋市アーバンデザイン計画に基づき、再整備が進められている。

カ 大胡ぐりんふらわー牧場

旧大胡町営牧場を前身に整備を進めた「大胡ぐりんふらわー牧場」は、平成2年からは赤城山の赤城おろしをイメージした「赤城ウィンディパーク」を愛称に市民の憩いの場と観光施設を一体化した施設で整備が進められ、平成7年には、「ぐりんふらわー牧場・大胡」として道の駅に認定され、赤城南麓に点在する他の観光施設とともに、観光客の休憩場所や地域住民の憩いの場としての活用を推進している。

キ 粕川温泉元気ランド

平成10年8月より営業が開始され、子供から高齢者まで日常生活を離れて、ゆったりくつろげるよう、また、幅広い市民が活用できる施設づくりを基本理念として運営されている。

施設は、源泉を2つ持ち、2種類の温泉や、自然石を利用した露天風呂、檜風呂を備えている。

ク 富士見温泉 見晴らしの湯 ふれあい館

赤城山の中腹を東西に走る国道353号沿いにあり、野菜等の産地直売所が併設されているため、赤城山の観光スポットのひとつとなっており、平成23年7月から「ふじみ」の名称で道の駅として認定されている。

平成9年9月にオープンしたこの温泉施設の泉質は、ナトリウム・カルシウム・塩化物温泉で、塩分を含んでいるために、体の芯から温まり、保湿性があると評判である。また、食堂では地元の素材を活かしたおいしい料理が味わえ、関東平野も一望できるなど景色は抜群で、露天風呂からは富士山が見えることがある。

平成27年4月から改修工事を行い、同年8月1日にリニューアルオープンした。

ケ 荻窪公園あいのやまの湯

赤城大鳥居を東西に走る県道34号線沿いに、10種約16,000株の見事なアジサイが植栽されている荻窪公園内に、「子供から高齢者まで、日常生活を離れて、ゆったり、ぬくもり、くつろげるよう、幅広い市民が活用できる施設」をコンセプトとして運営されている。広々とした大浴場に露天風呂、歩行浴ができるバーデプールのほか、風呂付個室も備えている。すぐ隣には農産物直売所もあり、国道17号バイパス「上武国道」が近くに建設されたことから、平成23年3月から道の駅「赤城の恵」としてオープンしている。

コ 赤城大鳥居

赤城有料道路の開通に伴う道路拡張により、一之鳥居撤去のため、前橋市観光協会が中心となり、昭和40年10月31日富士見町小暮地内の赤城県道に高さ21.3m余の赤城大鳥居が建設された。

サ 道の駅まえばし赤城

平成24年、25年度に上武道路沿線にて道の駅の設置を検討開始し、令和5年3月21日に開駅した。国道に直接接続するため国土交通省との一体型整備を行うとともに、民間事業者のノウハウ及び事業提案を効果的に活用するため「独立採算型PFIと公設民営の複合型」により整備管理運営を行っている。「ここにしかない赤城を味わい、ここでしかできない赤城を体験する」を道の駅のテーマとし、心地よく安全な前橋の魅力を発信する拠点として官民連携で取組みを進めている。

(3) 観光関係団体の育成と物産の宣伝

観光ニーズの多様化、高速交通網の整備による観光圏の拡大に伴い、(公財)前橋観光コンベンション協会や(一社)前橋市物産振興協会等関係団体の組織力、財政力の強化を推進している。本市では関係団体の支援育成及び周辺地区の観光振興事業の円滑な推進を行い、地域産業経済の発展と文化の興隆、本市のイメージアップと市民福祉の増進などの諸事業が活発に行えるよう団体の育成強化に努めている。

さらに、本市の観光の発展と物産の振興推進に伴い、関係機関と連携し、魅力ある観光都市“まえばし”の創造を目指す施策を構築し、実行していくために「ようこそまえばしを進める会」を平成17年11月に設置した。「ようこそまえばしを進める会」では、「TONTONのまち前橋」をキャッチフレーズに、T-1グランプリの開催や、豚肉料理グルメブックを発行する等、積極的な普及宣伝活動を行ってきた。「ようこそまえばしを進める会」は令和6年3月末をもって発展的解消となり、同会の所掌事務は(公財)前橋観光コンベンション協会へ移管されている。今後も本市の豚肉料理の推進について、民間事業者や関係団体と連携を図りながら

継続していく。

また、平成29年4月には前橋物産館を「Vento Maebashi」と名称変更、大幅リニューアルを行い、一層の効果的な前橋の物産の普及宣伝活動を行っている。

(4) 観光コンベンションの推進

前橋の観光振興事業の中核であった「前橋市観光協会」とコンベンションシティへのソフト面の取り組みをしていた「(財)前橋コンベンション・ビューロー」が一体的に事業推進するために平成18年4月に統合し、(財)前橋観光コンベンション協会となった。さらに、同協会は平成25年度から公益財団法人に移行し、来訪者の増加を推進し、地域経済の活性化に努めている。

近年は、臨江閣等ユニークベニューを活用した誘致に力を入れるなど、令和2年5月に開業した群馬県コンベンションセンター「Gメッセ群馬」との差別化を図りながら、前橋市の強みを生かしたコンベンション誘致に積極的に努めている。

令和4年4月には赤城自然塾と統合し、前橋市全域での一体的な観光資源の活用を目指している。

(5) 広域観光の推進

観光コースの広域化、観光ニーズの多様化に対応するため、国道353号沿線「あかぎ・風ライン」の観光宣伝、「赤城山広域振興協議会」(令和3年度中に解散)の活動に加えて、地域DMOである赤城自然塾と連携するとともに、観光宣伝や物産の紹介などを通じて周辺地域と協働し取り組んできた。

また、令和5年度には、赤城山周辺自治体と連携し、令和3年度から実施している赤城山の外周100Kmコースを巡るサイクルツーリズムイベントに加え、GPS位置情報を利用したスタンプラリーを新たに実施し、広域的な観光を推し進めた。

(6) 観光宣伝、観光プロモーション等

雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットを積極的に活用するほか、観光大使や本市のマスコットキャラクター「ころとん」を活用し、イメージアップの推進に取り組むとともに観光プロモーションを実施している。また、訪日観光客を含めより多くの人に本市の魅力を知ってもらえるよう、デジタルコンテンツを含んだ多言語対応観光パンフレットを作成、PRを行なっている。さらに、海外旅行会社へのプロモーションを通じて、インバウンド事業を推進している。加えて、観光PR特使によるパブリシティ活動、(公財)前橋観光コンベンション協会独自で発行している観光情報誌を利用するなど、本市の宣伝及び観光地の周知に努めている。

(7) スローシティ国際連盟への加盟とスローシティ前橋・赤城事業

前橋市とイタリア共和国オルビエート市は1997年12月に友好都市提携を結び、積極的な友好関係を築いてきた。オルビエート市はヨーロッパの古い歴史や文化、伝統を誇りとし、精神的豊かさを大切にゆったり暮らすことを推奨するスローシティの国際連盟本部を置いていることから、前橋市もその精神に賛同し、2017年5月に赤城山及び南麓地域がスローシティ国際連盟への加盟を認証された。

本市では、この加盟を機会にゆとりある豊かなまちづくりを進めるため、この地域にある自然や文化などを観光資源として磨き上げ、インバウンドを含めた情報発信により交流人口の増加を目指している。